

2) 形態・意匠・色彩

<ねらい・目的>

「高さ・配置」の基準と合わせて、さらに統一感やまとまり感のある景観誘導、渡嘉敷村らしい良好な景観形成を図るために形態・意匠の基準を設けています。また、建築物等の色彩は景観に与える影響が大きいことから、周辺の景観と調和する色彩の基準を設けています。

① 周辺との調和に配慮した形態・意匠・色彩

建築物の形態・意匠・色彩は、周辺との調和に配慮する。

地区区分

集 落

農 地

建築物の形態・意匠は、背景となる山並みや海岸線等、周辺との調和に配慮する。

地区区分

自 然

周辺の主要な眺望点及び拝所からの眺望を阻害しないよう、形態・意匠・色彩に配慮する。

地区区分

すべて

丘陵地エリアの周辺においては、稜線や斜面地の傾斜になじませるよう、形態・意匠・色彩に配慮する。

地区区分

集 落

自 然

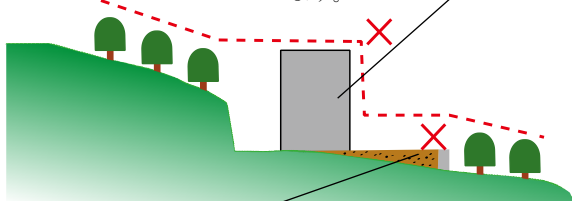
農 地

< 解 説 >

ポイント①：緑の稜線、海岸線等の自然景観が守られるように、周囲と調和する建物・屋根等の形状にしましょう。

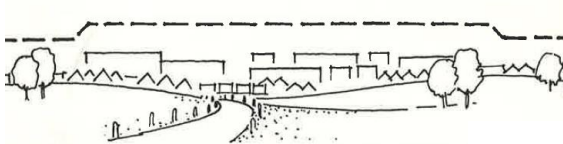
【避けるべき例】

四角の形状は人工的で強い印象を与えます。また、建物の縁（エッジ）が緑の稜線等を分断しています。



人工物でできた擁壁は、建築物と同様に自然と調和しづらいため、素材（琉球石灰岩張）や緑化等の工夫をしましょう。

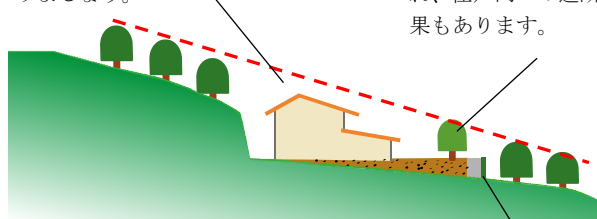
【現状】



個々の建物のシルエットが単調であり、好ましくありません。

【望ましい例】

勾配屋根にする等の稜線に沿った形態・意匠とし、眺望景観を守りましょう。



境界に配置することで緑の連続性が守られ、住戸内への遮断効果もあります。

擁壁は自然素材の使用や緑化による修景で、人工物の印象を和らげることができます。

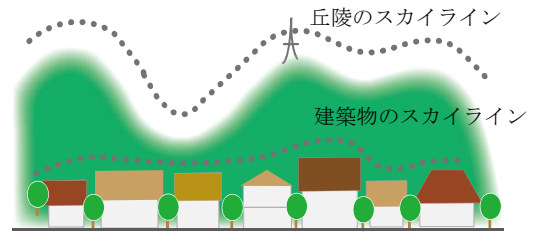
【将来】



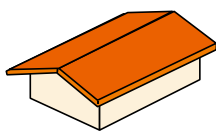
まち全体のシルエットにまとまりがあり、建物のスカイラインと丘陵・樹林の稜線のリズムの調和が地域らしさを創出します。



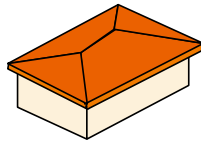
渡嘉敷区の民家と背後の山並み



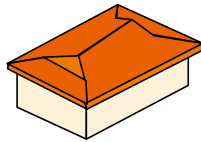
【参考：屋根の形式】



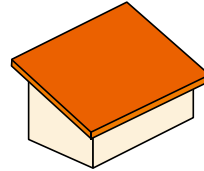
切妻屋根



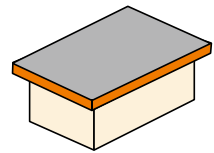
寄棟屋根



入母屋屋根



片流れ



陸屋根

一般的に、沖縄の伝統的な屋根形態は「寄棟」です、4方向に傾斜のある屋根であり、どの方向からも見てもその雰囲気が伝わります。

「切妻屋根」は2方向が壁面になるため、道路側等の見える方向に屋根面が見えるようにするなど、雰囲気と上手に調和するようにしましょう。

「片流れ」も同様に傾斜面をうまく見せることで、「寄棟」「切妻」と同じような景観的効果を演出できます。反対方向が大きな壁面となるため、その壁面は緑化等で遮蔽することで上手に調和させましょう。

地域を代表する景観資源の周辺や集落の重要な祭事等が行われる場所の周辺においては、歴史・文化的な雰囲気を阻害しないよう、形態・意匠・色彩に配慮する。

地区区分

集 落

自 然

農 地

< 解 説 >

ポイント①：都市的雰囲気ではなく、昔ながらのまちなみが残る集落景観、地域の重要な祭事等が行われる場所の周辺においては、歴史・文化的な雰囲気を阻害しないような雰囲気づくりを心がけましょう。

「大切にしたいもの、守りたいもの」

(平成 29 年度村民アンケート調査結果より)

○ハーリーや大綱引き等の伝統行事

○根元家の石垣、集落内に残るフクギ・クロキ等、昔ながらの沖縄古民家(赤瓦屋根木造等)



根元家の石垣



渡嘉敷区内にある石垣



渡嘉敷区内にある
フクギ並木と石垣



渡嘉敷区内にある赤瓦屋根木造民家



阿波連区のヤシ



阿波連ハーリー

② まちなみとしてのまとまりや周辺との調和に配慮した屋根の形状

建築物の屋根の形状は赤瓦勾配屋根が望ましい。

地区区分

集 落

< 解 説 >

ポイント①：沖縄の伝統的な屋根は赤瓦葺きです。県内で生産されている赤瓦（琉球赤瓦やS型瓦、断熱瓦など）の勾配屋根としましょう。

【避けるべき例】



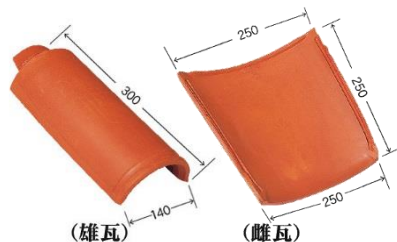
屋根の形状・色がバラバラで、チグハグなまちなみの印象を与え、地域らしさが引き立ちません。

【望ましい例】



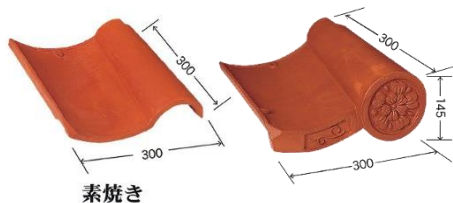
勾配屋根にするだけでも、まとまり感のあるまちなみとなり、赤瓦の素材を統一すると美しいまちなみが創出されます。

【参考：沖縄県産赤瓦】



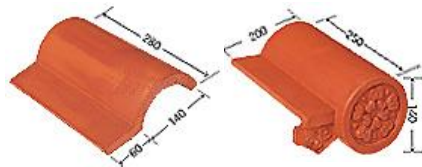
■琉球赤瓦（在来瓦）

- ・沖縄に昔からある瓦で、雌瓦・雄瓦からなる本葺きタイプの瓦です。
- ・瓦の繋ぎめは、漆喰で塗り固められ、通気性・断熱性に優れ、沖縄の気候風土に調和した瓦です。



■S型瓦

- ・在来瓦の雌瓦・雄瓦を一体にすることにより、施工時の作業効率を良くした瓦です。
- ・在来瓦に比べて施工時間が短くて済みます。



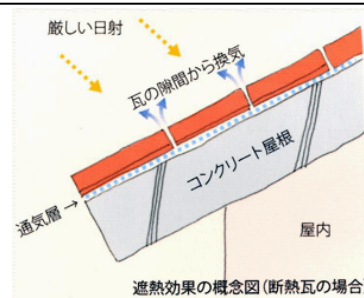
■断熱瓦

- ・コンクリート下地と瓦との間にできる空気層を利用して、屋根面を断熱することに特化した瓦です。
- ・コンクリート下地専用の瓦です。

【豆知識：瓦屋根で涼しく！】

沖縄では夏の厳しい日差しにより室内温度が上昇しますが、屋根に瓦を葺くことで遮熱効果が期待できます。

コンクリート屋根のみの場合と赤瓦屋根を比較すると、夏季の室内温度が約4℃下がり、涼しくなるという実験結果があります。



渡嘉敷村景観形成助成金交付案

【助成金及び助成対象行為等】

助成対象行為の種別		交付の対象となる経費		助成の要件	助成限度額	適用回数
建築物	屋根	新築	屋根の設置に係る工事費用	赤瓦は沖縄県産赤瓦とすること。 新規については、屋根面積の3分の1以上の施工とすること。	交付の対象となる経費の2分の1以内の額とし、200万円を限度とする。	その後の補修・修繕に関して、原則1回のみ助成金の交付を受けることができる。
		既存	全面又は一部の葺き替え若しくは補修等（漆喰塗装を含む）			補修・修繕に関して、原則当該1回のみ助成金の交付を受けることができる。

備考：1 国又は県の補助がある場合は、当該補助額を差し引いた額を対象経費とする。

2 助成金の額は千円単位とし、千円未満は切り捨てるものとする。

【豆知識：沖縄の赤瓦】

- 沖縄で赤瓦が一般の住宅で使われるようになったのは1889年（明治22年）の禁止令が解かれた後である。
（1737年、琉球王府は、屋敷・家屋の規模を制限するとともに、平民の瓦葺きを禁止した）
- 昔ながらの赤瓦屋根の勾配は4寸から6寸勾配であり、屋根の勾配がきついほど赤瓦の枚数が多くなり、屋根事態が重くなる。座間味村の慶留間島にある国指定重要文化財の「高良家」の屋根勾配は5.5寸である。

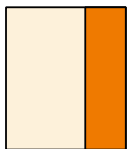
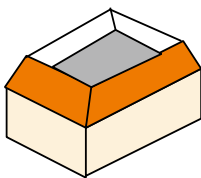
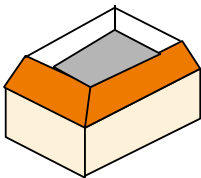
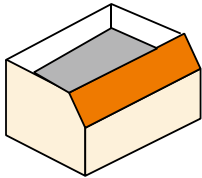


< 解説 >

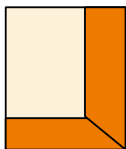
ポイント②：屋根面積の 1/3 以上を沖縄県産瓦とする場合は助成があることを意味しています。部分的であっても、道路側に赤瓦屋根がみえるようにするなど、景観に配慮しましょう。



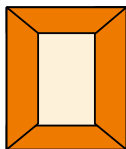
■屋根面積の1/3 以上のパターン例



片流れ



カギ型



ハチマキ型

建築物の屋根の形状は切妻、寄棟等の勾配屋根が望ましい。

地区区分

自然

建築物の屋根の形状は寄棟（４～６寸勾配）とし、素材は琉球赤瓦とすることが望ましい。

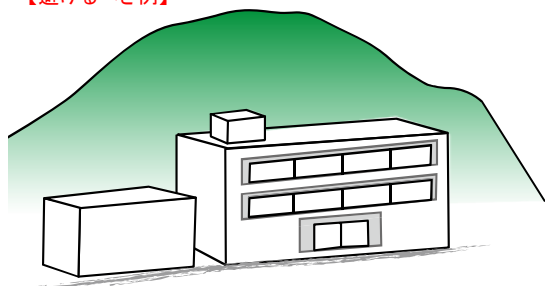
地区区分

島の玄関

< 解説 >

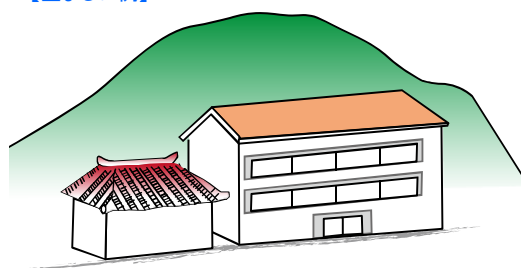
ポイント①：港は島を印象づける場所です。また、ターミナル施設等の公共施設は比較的大きな規模となることから、赤瓦勾配屋根を基本とし、周辺の景観に配慮しましょう。

【避けるべき例】



背後に丘陵や樹林地等がある場合、四角の形状の建物は人工的であり、緑のスカイラインが乱れます。

【望ましい例】



緑のスカイラインを乱さないよう、勾配屋根を基本としましょう。



印象づける島の玄関口（フェリーから渡嘉敷港への眺め）



赤瓦屋根の渡嘉敷港フェリーターミナル



赤瓦屋根の慶良間空港ターミナル（座間味村）

③ 周辺と調和する色彩(屋根、壁面)

<屋根の色彩基準>

建築物の屋根等に用いる色彩は、高～中明度かつ中～低彩度とし、黒色の使用を避け、周辺の景観との調和に配慮する。

地区区分

集 落

建築物の屋根等は、自然素材に多い、R(赤)、YR(黄赤)、Y(黄)系の色相で、高～中～低明度かつ中～低彩度の色彩とし、黒色の使用を避け、周辺の景観との調和に配慮する。

地区区分

自 然

建築物の屋根等に用いる色彩は、高～中～低明度かつ中～低彩度とし、黒色の使用を避け、周辺の景観との調和に配慮する。

地区区分

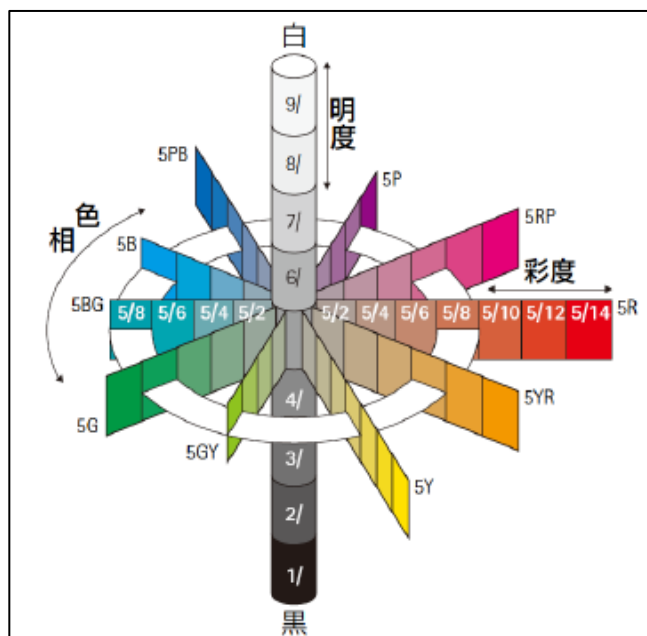
農 地

< 解 説 >

ポイント①：落ち着いた色彩の範囲を特定するために、マンセル記号を用います。

○このガイドラインでは、色彩を客観的に取り扱うため、日本工業規格(JIS)にも採用され国際的な尺度として普及している「マンセル表色系」を尺度として、色彩を数値基準として示しています。色彩は「色相」、「明度」、「彩度」の3つの属性で表されます。

<マンセル表色系を用いた定量的な色彩基準の設定>



7.6YR 9.2/1.3
(読み方) 7.6 ワイエール 9.2 の 1.3)

N5.8
(読み方) エヌ 5.8

●「色相(しきそう)」

色相は、いろあいを表します。10種の基本色(赤、黄赤、黄、黄緑、緑、青緑、青、青紫、紫、赤紫)の頭文字をとったアルファベット(R, YR, Y, GY, G, BG, B, PB, P, RP)とその度合いを示す0から10までの数字を組み合わせ、10Rや5Yなどのように表記します。

●「明度(めいど)」

明度は、あかるさの度合いを0から10までの数値で表します。暗い色ほど数値が小さく、明るい色ほど数値が大きくなり10に近くなります。

●「彩度(さいど)」

彩度は、あざやかさの度合いを0から14程度までの数値で表します。色味のない鈍い色ほど数値が小さく、白、黒、グレーなどの無彩色の彩度は0になります。逆に鮮やかな色彩ほど数値が大きくなり赤の原色の彩度は14程度です。

●「マンセル記号」

有彩色は、7.6YR 9.2/1.3のように、色相、明度/彩度を組み合わせて表記し、無彩色は、N5.8のようにニュートラルを表すNと明度を組み合わせて表記します。